

インドネシア人日本語学習者が求める日本語の辞書とは？

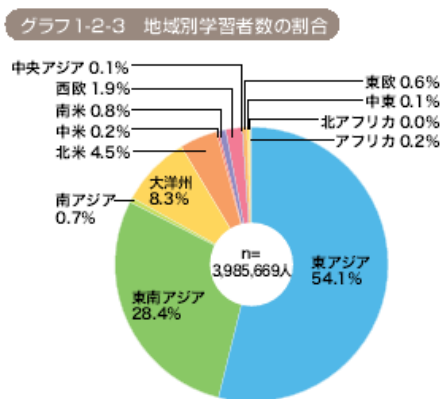
—アンケート調査を基にして—

アグス・スヘルマン・スルヤディムリア パジャジャラン大学

キーワード：学習者 辞書 アンケート 定量的分析

1. はじめに

現在インドネシアの多くの大学で使われている辞書は、対象学習者を特定しない一般的な辞書がほとんどで、インドネシア人日本語学習者のために作られた辞書は少ない。そこで、本発表では、現在パジャジャラン大学で実際に日本語を学んでいる3・4年生の学習者233名にアンケート調査を行い、どのような辞書を使っているか、どういう辞書が良いか、どのような辞書を望んでいるかなど定量的分析を行った。総合的にインドネシア人日本語学習者が望む辞書の全体像を描き出した。



国際交流基金の『2012年度 日本語教育機関調査 結果概要(抜粋) PDF』(p.6)より、「東アジアは(全学習者数の)54.1%にあたる2,154,344人、東南アジアは28.4%にあたる1,132,701人となっており、この2地域で全体の82.5%を占める。」とある。また、同抜粋によれば、インドネシアにおける日本語教育機関・教師・学習者の数は、2009年度の調査結果と比べると急増しており、学習者数は中国に続いて世

2012年 順位	2009年 順位	国・<地域>	学習者(人)		
			2012年	2009年	増減率 (%)
1	2	中国	1,046,490	827,171	26.5
2	3	インドネシア	872,411	716,353	21.8
3	1	韓国	840,187	964,014	▲12.8
4	4	オーストラリア	296,672	275,710	7.6
5	5	<台湾>	233,417	247,641	▲5.7
6	6	米国	155,939	141,244	10.4
7	7	タイ	129,616	78,802	64.5
8	8	ベトナム	46,762	44,272	5.6
9	11	マレーシア	33,077	22,856	44.7
10	12	フィリピン	32,418	22,362	45.0

界第2位となっている。インドネシアの学習者数872,411人(2009年：716,363人)のうち、90%以上が中等教育段階の学習者であり、その人数は世界第1となっている。

アグス(2013)に述べられているように日本語に対する関

心が高まり学習者が増加しているが、一方では日本語教師の不足や多様な目的を持つ学習者に適切な教材が不十分であるなどといった問題が生まれている。このような問題を乗り越え

ていくためには、それぞれの国や地域で日本語教育に従事している人々が一層の交流を図り、親交を深め、積極的に協力していく必要がある。しかし、海外で日本語教育に携わっている機関や日本語教育者は、他国はもちろんのこと自国においても他機関や他の日本語教育者と意見や情報と交換し合う機会が非常に限られているのが現状である。

2. インドネシア人日本語学習者の辞書使用状況の調査

2013 年の調査では、インドネシアの多くの大学で使われている辞書は、対象学習者を特定しない一般的な辞書がほとんどで、インドネシア人日本語学習者のために作られた辞書ではないことが分かった。以下、その調査結果である。

【表 1】パジャジャラン大学の日本語学習者が使用している辞書の名称と学年別の使用者数

学年	a	b	c	d	e	f	g	合計 (人)
1 年生	137	5	3	2	0	1	2	150
2 年生	135	5	4	2	0	1	3	150
3 年生	123	4	6	7	2	3	5	150
4-5 年生	93	2	16	14	12	7	6	150
合計	488	16	29	25	14	12	16	600

a. 学習堂

b. エバーグリーン

c. 谷口五郎

d. 松浦健二

e. 広辞苑

f. 電子辞書

g. その他

【表 1】から分かるように 1 年生から 3 年生まではほとんど学習堂が出版した辞書を利用している。インドネシア語・日本語そして日本語・インドネシア語の両言語が記載されており、持ち運びが便利だという理由で使用者が多いと考えられる。一方、4-5 年生も、教室へは学習堂が出版した辞書を持参しているが、漢字、作文、読解などのように、より語彙力を必要とする授業では、もっと対応できる辞書を必要とする強い傾向が見られる。第 3 位の谷口五郎及び第 4 位の松浦健二の辞書には、辞書自体の初版が 15 年前のものだ。新装版として出版された最新のもの(2013 年)でさえ、次々と新しい言葉が生まれることから、項目として取り上げた時点ですでに古くなっている可能性があると言わざるを得ないだろう。しかし、これは紙の辞書の宿命と言うほかないであろう。この点でも辞書のネット化が今後益々加速すると予想される。

2014 年に行った今回の、3 年生及び 4 年生を対象とした調査の結果は【表 2】・【表 3】次のとおりである。

【表 2】パジャジャラン大学の日本語学習者が使用している辞書の名称と使用者数（3・4年生）

番号	辞書名	3年生	%	4年生	%
1	学習堂	83	79.81	82	63.57
2	ネルソン	57	54.81	32	24.81
3	ネット無料辞書（携帯電話ソフト）いみは、JED、Z-漢字、おべんきょう、LINE 辞書	61	58.65	99	76.74
4	エバーグリーン	14	13.46	16	12.40
5	Google Translate	14	13.46	6	4.65
6	谷口五郎	9	8.65	20	15.50
7	ウェブ	10	9.62	4	3.10
8	電子辞書	17	16.35	31	24.03
9	松浦健二	0	0.00	44	34.11
10	日本語辞典	0	0.00	3	2.33
11	広辞苑	0	0.00	3	2.33
12	Oxford	0	0.00	2	1.55
13	小学園	0	0.00	1	0.78
14	英和辞典	0	0.00	1	0.78
15	国語辞典	0	0.00	1	0.78
	合計	265		345	

【表 2】を見て、特筆すべきは、ネット辞書の使用の高さであろう。スマートフォンを持っている大学生が現在が多いことから、容易に想像できることだが、今後はネット辞書の使用は益々高くなることが予想される。学習堂やネルソンの辞書も近い将来ネットでダウンロードできるようになるであろう。

【表 3】パジャジャラン大学の日本語学習者が求める理想的な辞書の特徴（3・4年生）

番号	どんな情報が出ている辞書があったらいいなと思いますか。（複数可）	3年生	%	4年生	%
1	情報が細かい辞書	76	73.08	27	20.93
2	日常会話によく使われる語彙が豊富な辞書例文、会話	30	28.85	25	19.38
3	漢字の書き方、読み方、使い方、部首	26	25.00	30	23.26
4	カラー写真が載せる辞書、見やすい、文字が大きい	10	9.62	1	0.78
5	低価格	5	4.81	3	2.33
6	便利がいい	11	10.58	23	17.83
7	動詞・名詞・形容詞などの語彙が豊富な辞書	4	3.85	37	28.68
8	電子辞書	2	1.92	4	3.10
9	説明が分かりやすい辞書	0	0.00	13	10.08
10	AUDIO VISUAL が付いている辞書	0	0.00	4	3.10
11	日本語能力検定試験に限定された辞書	0	0.00	3	2.33

12	信用できる辞書	0	0.00	2	1.55
13	最新情報が豊富な辞書	0	0.00	2	1.55
14	ことわざ・慣用句・表現が豊富な辞書	0	0.00	1	0.78
	合計	164		175	

【表 3】からパジャジャラン大学の日本語学習者が求める理想的な辞書の特徴がわかるが、学習者が使う辞書ということで、「情報が細かい辞書」という項目が最も高いが、これは想像するに、文法的な情報（どういう助詞と一緒に使われるか）、書き言葉か話し言葉か、若者ことばか年配の人の言葉か、男言葉か女言葉か、目上にも使える言葉か、現代の言葉かちょっと古めかしい言葉か、どういう状況で使える言葉かなどの語用論的、社会文化的な情報なども言葉の意味情報だけでなく、できるだけ記載されているほうが学びやすいということだと思われる。使い方がわかる母語話者と違って、学習用の言葉の辞書にはより幅広い情報が求められるのは納得が行く。

次に多いのは「日常会話によく使われる語彙が豊富な辞書」である。会話能力を高める辞書が大学生には望まれていると言えよう。これは言葉はやはり話して、意味が通じたり、相手の言っていることが分かるという会話力を身に付けたいという学習者の素直な気持ちの表れであろう。

【表 4】 どのような辞書を希望するか（複数可）

番号	希望する辞書の内容	3年生	%	4年生	%
1	情報が細かい辞書	99	95.2	127	98.4
2	情報が限られている辞書	0	0.0	4	3.1
3	文法的な説明が付いた辞書	79	76.0	93	72.1
4	難易度が書かれた辞書（N1レベル、N2レベルなど）	76	73.1	83	64.3
5	流行語が多く掲載された辞書	57	54.8	64	49.6
6	場面ごとに分かれた辞書	83	79.8	84	65.1
7	敬語と元の語とが一緒に載っている辞書	68	65.4	75	58.1
8	写真がのっている辞書	13	12.5	20	15.5
9	日常会話に限定された辞書	12	11.5	23	17.8
10	若者の日常会話に限定された辞書	9	8.7	25	19.4
11	会社の会話に限定された辞書	8	7.7	29	22.5
12	漫画が読めるようになる辞書	4	3.8	19	14.7
13	日本語能力検定試験に限定された辞書	19	18.3	36	27.9
	合計	527		682	

更に、【表 3】に加えて、【表 4】から分かったことは、6番の「場面ごとに分かれた辞書」及び7番の「敬語と元の語とが一緒に載っている辞書」を求めている学習者は多いことが分かった。これは大変大事なことで、言葉の意味だけ分かって、どういう場面でどういう相手

に使った方がいいのかの情報も大変重要で、学習用の辞書には当然求められる、期待される情報である。また、日本語は敬語が発達していて、相手、親疎、公式的な場かどうかなどの要素を考慮して、敬語を使うか普通の言い方で十分なのか瞬時に判断しなければならない。また、敬語システムが発達して、習得が難しいことから、「敬語と元の語とが一緒に載っている辞書」がほしいという学習者の希望も十分納得できる。

【表 5】辞書をどの程度使うか

番号	辞書使用頻度	3 年生	%	4 年生	%
1	使う	86	82.7	101	78.3
2	時々使う	14	13.5	24	18.6
3	あまり使わない	2	1.9	4	3.1
4	全く使わない	2	1.9	0	0.0
	合計	104		129	

【表 5】から学習者の 80%以上が辞書を使っているということが判明したが、日本語学習の上で辞書使用の重要性を物語る結果だと言えよう。辞書を使っていることは分かったが、辞書の使い方に関しては明らかになっておらず、今後の課題となろう。分からない言葉があったらすぐ辞書を引くのか、それとも、前後関係からまず予測し、その予測が当たっているかどうかを確認するために辞書を引くのか、いろいろな辞書の使い方があると思われるが、今後の研究としたい。

【表 6】どのような言語辞書を使うか (複数可)

番号	辞書タイプ	3 年生	%	4 年生	%
1	日・イ辞典	94	30.7	119	92.2
2	イ・日辞典	90	86.5	103	79.8
3	日・日辞典	13	12.5	7	5.4
4	日・英辞典	52	50.0	67	51.9
5	英・日辞典	54	51.9	52	40.3
6	その他	3	2.9	3	2.3
	合計	306		351	

日・イ辞典やイ・日辞典の使用率が高いことがわかる。日本語レベルが高くなればなるほど生教材が使われ、未知の言葉に触れ、結果、日・イ辞書を引く回数が増えること、また、上級になればなるほど長い文章を書く必要性が出てきて、それで、日本語で何と表現するかとイ・日辞典を引く場合も多くなっていることが予想される。

日英、英和辞典などの使用率が高いのは意外であった。どうして日本語を勉強するのに、日英、英和辞典を使うのであろうか。恐らく、より豊かな情報が長い歴史のある日英、英和の辞書に記載されているのではないだろうか。また、インドネシアにおける英語教育の昨今の成功も日英、英和辞典の使用率の増加に反映しているものと思われる。

【表7】どのようなタイプの辞書を使うか（複数可）

番号	辞書タイプ	3年生		4年生	
1	紙の辞書	76	73.1%	119	92.2%
2	電子辞書	39	37.5%	29	22.5%
3	インターネット辞書	68	65.4%	42	32.6%
4	ネット有料辞書（携帯電話）	5	4.8%	5	3.9%
5	ネット無料辞書（携帯電話）	62	59.6%	92	71.3%
6	その他	12	11.5%	12	9.3%
	合計	262		299	

インターネットの辞書の使用率が徐々に伸びているが、紙の辞書もまだまだ捨てた物ではない。紙の手触り感なども重要な要素で、「辞書を引いている」という満足感なども紙の辞書の使用率を高めているのではないかと思う。現在は、紙の辞書とインターネット辞書が共存している状態と言っても過言ではなからう。

【表8】紙の辞書を使っている人に質問：どのような紙の辞書を使っているか

番号	使用辞書	3年生	%	4年生	%
1	高い辞書を使っている	6	7.9	25	21.0
2	安い辞書を使っている	6	7.9	19	16.0
3	学校で紹介された辞書を使っている	63	82.9	55	46.2
4	コンパクトな辞書を使っている	60	78.9	89	74.8
5	単語帳程度の辞書を使っている	10	13.2	19	16.0
	合計	145		207	

「学校で紹介された辞書を使っている」「コンパクトな辞書を使っている」の二つが大半を占めている。学校が紹介した辞書だと安心して購入できるであろうし、携帯可能な小さな辞書が実用的で使いやすく、学習者には望まれているようだ。

【表9】何を知るために辞書を使うか（複数可）

番号	辞書使用の目的	3年生	%	4年生	%
1	言葉の意味	104	100.0	129	100.0
2	言葉の使い方	65	62.5	85	65.9
3	語源を知るため	38	36.5	55	42.6
4	語構成	29	27.9	30	23.3
5	文法	31	29.8	34	26.4
	合計	267		334	

「言葉の意味」「言葉の使い方」を知るために使う人が多いが、現在の辞書を手にとってみれば、十分理解できる。しかし、「語源」「語構成」「文法」などに加えて、前述したように、語用論的な、社会文化的な情報もこれから出てくる辞書には記載を期待したい。

【表 10】何をするために辞書を使うか（複数可）

番号	辞書使用の目的	3年生	%	4年生	%
1	授業のため	84	80.8	118	91.5
2	自主勉強のため	98	94.2	121	93.8
3	音楽を聞き、意味を知るため	83	79.8	105	81.4
4	ドラマを見て、意味を知るため	34	32.7	39	30.2
5	映画を見て、意味を知るため	50	48.1	47	36.4
6	漫画を読み、意味を知るため	26	25.0	41	31.8
	合計	375		471	

【表 10】より、「授業のため」「自主勉強のため」というのは辞書本来の使用目的と考えると合点が行く。しかし、「音楽を聞き、意味を知るため」が上位3位に入っているのは、おもしろい結果である。意味を調べて、歌詞を覚えて、日本語の歌を通して日本語を学びたいからであろうか。日本語で歌が歌えると、日本人と交流するいいきっかけになり、日本人の友達が出来やすいであろう。

3. まとめ

本論考は、インドネシア人日本語学習者にとって、日本語学習上、望ましい辞書とはどういう特徴を備えた辞書かをアンケート調査により、調査分析し、明らかにした。主な調査結果は、(1) イ・日辞典、日・イ辞典だけでなく日英辞典、和英辞典の使用も多いこと、(2) ネット辞書の使用率が急激に増えたこと、(3) 言葉の意味はもちろんのこと、その運用上の情報も得たいと思っている、ことが明らかになった。今後は、この結果を基にして、インドネシア人日本語学習者に役に立つ、有益な辞書作りに繋げていきたい。

参考文献

- Agus Suherman SURYADIMULYA (2012) 「東南アジア諸国間および日本との間の日本語教育の連携の可能性」 『東南アジア日本語教育シンポジウム』、8頁、日本語教育学会
- Agus Suherman SURYADIMULYA・坂本 正(2012) 「インドネシア人日本語学習者が求める初級日本語の教科書とは? — アンケート調査を基にして —」 日本語教育国際研究大会ポスター発表(8月18日)、名古屋大学
- Agus Suherman SURYADIMULYA (2013) 「インドネシア日本語教育事情とその課題」 日本語教育国際研究大会 (7月12日) シドニー工科大学
- Agus Suherman SURYADIMULYA and Tadashi SAKAMOTO (2014) Pursuing a Better Elementary Japanese Textbook for Indonesian Learners, *International Journal of Education*, Macrothink Institute, USA
- Japan Foundation (2012)
http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/result/dl/survey_2012/2012_s_excerpt_j.pdf